

## 第2章 基本目標と基本的方向

### 1 基本目標

まち・ひと・しごと創生総合戦略では、少子高齢化に的確に対応するとともに、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって持続可能な活力ある社会を維持していくために、以下の4つの基本目標を設定しています。

- ① 「地方における安定した雇用を創出する」
- ② 「地方への新しいひとの流れをつくる」
- ③ 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- ④ 「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

区市町村においても、まち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案して、地域の実情に応じながら、一定のまとまりの政策分野ごとに、戦略の基本目標を設定することとされています。これを受けて、区では、国の基本目標を勘案しつつ、杉並区人口ビジョン及び区の実情を踏まえ、次の3つの視点に沿って基本目標を設定しました。

**視点1** 区民の結婚・出産・子育てに関する理想や希望と現実の差を解消し、安心して、子どもを産み育てられる社会を実現することにより、人口流入に頼らず、区自ら人口を維持、増加させる力を育てる



#### 基本目標1

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

**視点2** 「住みたい」「住み続けたい」住宅都市としての魅力を高める一方で、「訪れてみたい」まちとしての魅力を高め、にぎわいを創出する



#### 基本目標2

来街者を増やし、まちのにぎわいを創出する

**視点3** 地方の活力維持と区の将来にわたる発展が一体不可分であるという認識のもと、交流自治体との連携をさらに発展させ、双方が活性化する新しいひとの流れをつくとともに、地方の資源を活用し区民の生活をより豊かにする



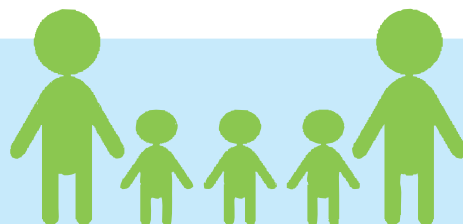
#### 基本目標3

地方との連携により、豊かな暮らしをつくる

## 2 基本的方向

### 基本目標 1

若い世代の結婚・出産・  
子育ての希望をかなえる



#### 現 状

- 待機児童の解消に向け、平成 22 年 4 月からの 5 年間で保育定員を約 2,890 人拡充しました。
- 平成 17 年以降は、出生数及び合計特殊出生率ともに増加傾向にあります。
- 結婚の意向がある 20、30 代の未婚の男女の割合は、8 割を超えています(※1)。
- 希望する子どもの数は 1 位が「2人」、平均では 2.27 人となっており、今後子どもを持つ条件としては「地域の保育サービスが整うこと」が 1 位、「働きながら子育てができる職場環境であること」が 2 位となっています(※2)。

#### 戦略最終年度（平成 31 年度）の目標達成指標（KGI）

| 目標値の名称                  | 現状値                 | 平成 31 年度 | 目標値の説明 |
|-------------------------|---------------------|----------|--------|
| 仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合 | 64.2%<br>(平成 26 年度) | 75%      | 区民意向調査 |
| 若い世代（18～39 歳）の定住意向      | 77.3%<br>(平成 26 年度) | 85%      | 区民意向調査 |
| 出生数に占める第二子以上の割合         | 38.8%<br>(平成 26 年)  | 45%      | 区出生統計  |

#### 取組の基本的方向

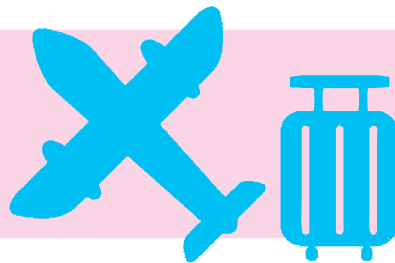
- ◆ 区民の結婚の希望をかなえ、区に住み続け、安心して子どもを産み育てられるよう切れ目のない支援を行います。

※1 結婚・出産・子育てに関する意識調査（平成 27 年 5 月 杉並区実施）

※2 既に子どもがいる人については、2 人以上の子どもを持つ場合の条件

## 基本目標 2

来街者を増やし、  
まちのにぎわいを創出する



### 現 状

- JR中央線の区内 4 駅(※1)周辺を一つの観光地と捉え、イベントや個性的な店舗を紹介し区外からの集客を図る「中央線あるあるプロジェクト」を民間事業者と協働で実施し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(※2)へのアクセス数やイベント参加者数が着実に増加しています。
- 区内には全国的に有名な観光スポットはありませんが、高円寺阿波おどりや阿佐谷七夕まつりをはじめとした様々なイベントや、特色のある施設があり多くの人が訪れています。
- 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定等を契機に、訪都外国人旅行者は増加していますが、訪問先は都心部や一部の観光地に集中しています。
- 訪日外国人旅行者数第 1 位の台湾(※3)と少年野球や阿波おどりを通じて交流を深めています。

### 戦略最終年度（平成 31 年度）の目標達成指標（KGI）

| 目標値の名称                       | 現状値                     | 平成 31 年度  | 目標値の説明       |
|------------------------------|-------------------------|-----------|--------------|
| 区内全駅の一平均乗降人員                 | 706,238 人<br>(平成 26 年度) | 745,000 人 | 鉄道会社<br>発表資料 |
| 外国人を含む来街者の増加を<br>実感している店舗の割合 | —                       | 80%       | 個別調査         |

※現状値の「—」は新たに調査する指標

### 取組の基本的方向

- ◆ 区内の観光資源の魅力を高めるとともに、その魅力を効果的に伝える情報発信力を強化し、訪日外国人旅行者を含めた来街者の増加を図ります。

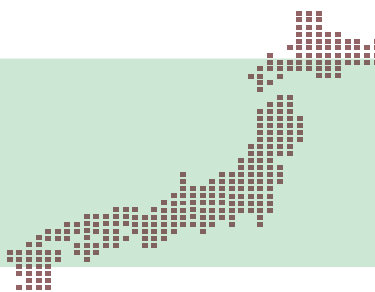
※ 1 高円寺駅、阿佐ヶ谷駅、荻窪駅、西荻窪駅

※ 2 人と人との社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービス

※ 3 日本政府観光局「デジタルジャパン事業開始以降の訪日客数の推移 2014 年数値」

## 基本目標 3

地方との連携により、  
豊かな暮らしをつくる



### 現 状

- 区と交流自治体の行政課題の解決に向け、自治体連携により静岡県南伊豆町に、区民が入居することができる特別養護老人ホームの整備を進めています。
- 小学生の相互訪問方式による交流自治体との交流・体験学習事業には、毎年多くの子どもたちが参加し、区にはない自然環境に接することができます。
- 交流自治体の物産展への来場者数と売上が伸びるとともに、交流自治体の宿泊施設の区民利用が増加しており、住民同士の交流が進んでいます。
- 40～60 代の地方での暮らしの希望は、「行ってみたい」(11.7%)、「どちらかといえば行ってみたい・興味がある」(29.5%)で、約 4 割を超える人が移住に興味を持っており(※1)、国の同趣旨の調査(※2)とほぼ同様の傾向があります。

### 戦略最終年度（平成 31 年度）の目標達成指標（KGI）

| 目標値の名称                                | 現状値                  | 平成 31 年度 | 目標値の説明     |
|---------------------------------------|----------------------|----------|------------|
| 国内交流自治体との連携事業への参加者数                   | 2,572 人<br>(平成 26 年) | 3,200 人  | 事業実績調査     |
| 国内交流自治体との連携事業を通じて、暮らしが豊かになったと感じた区民の割合 | —                    | 80%      | 事業参加者アンケート |

※現状値の「—」は新たに調査する指標

### 取組の基本的方向

- ◆ 地方にある地域資源を活かし、多様な体験や新たな住まい方の選択肢等を提供し、豊かな暮らしづくりを支援します。
- ◆ 交流自治体との取組の実績等を踏まえ、特別区全国連携プロジェクト(※3)を活用する等、交流自治体以外の自治体との連携についても検討します。

※1 40～60 代の地方での暮らしに関する意識調査（平成 27 年 5 月 杉並区実施）

※2 東京在住者の今後の移住に関する意識調査（平成 26 年 8 月 内閣官房実施）

※3 東京 23 区が各地域との新たな連携を模索し、東京を含めた各地域の活性化、まちの元気につながる取組を展開するもの